

# 施策評価表

施策分野	5-1 都市景観										
めざすまちの姿	○北部地域の田園・農村景観、山並みを背景とした自然景観、文化を感じる街並み景観が調和した宝塚らしさを感じる景観が保たれ、魅力を増している。										
施策	(1)「宝塚らしさを感じる景観」の魅力の向上										
総合戦略での位置付け	基本目標2 子どもがいいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり					-					
施策の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○住民主体のまちづくりや情報の発信により、市民意識の向上を図ります</li> <li>○新たな土地利用において良好な景観の形成を誘導します</li> <li>○自然や歴史・文化などにより培われた良好な景観の維持保全を推進します</li> <li>○新たな制度設計やガイドラインについて検討します</li> <li>○屋外広告物の規制・誘導を行い、違反広告物の減少を目指します</li> </ul>										
施策を構成する主な事務事業	屋外広告物事務推進事業					都市景観保全・創出事業					
担当部局評価	A	評価の理由	宝塚市景観計画に即し景観形成の方針や基準に基づき、都市景観の保全や形成を行っている。また、市民、事業者の理解と協力を得て、宝塚市景観計画に基づく景観施策や屋外広告物条例に基づく都市美化を推進している。きずなづくり推進事業も活用し、市民と協働して「宝塚らしさを感じる」景観の維持、形成、保全に努めた。これらの活動が、指標の上昇につながったと思われる。								
成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		「市域全体の景観保全への市の取組が十分できている又はできている」と回答した市民の割合	↗	%	20 (H30年度)	目標	21	-	-	22	-
		実績	29.2								
	達成状況とその理由	達成 想定よりも数値が上昇した要因として、コロナ禍による生活スタイルの変化もあると思われる。									
	②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		景観啓発等について協働で取組んだ市民団体数	↗	団体	8	目標	11	13	15	17	19
		実績	11								
	達成状況とその理由	達成 きずなづくり推進事業によって、前年度より継続の1団体に加え、新規で2団体の採択があったため。									
	③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
「宝塚らしさを感じる魅力的な景観が保たれていると思う」と回答した市民の割合		↗	%	-	目標	-	-	-	15	-	
実績		13.5									
達成状況とその理由	宝塚らしさを感じる景観については、継続的な啓発活動や維持保全が必要である										
施策実現のための課題	景観を守っていくためには、所有者、管理者による維持管理が不可欠であり、届出等の手続きだけでは、良好な景観の維持につながらないため、市民への意識啓発が課題である。			課題を踏まえた今後の取組	今後も届出等の手続きにおける指導・助言は継続しながら、市民と協働した景観啓発の取組を行っていく。						
行政評価委員会評価	<p>○景観行政の成果指標を掲げる場合には、景観計画特定地区の指定など事業と直結する指標とした方がよい。なお、景観行政は単に数値目標を達成することではないということなのであれば、その旨が市民に伝わるよう丁寧な説明を求めたい。</p> <p>○施策が住民からの申込、届出を待つ受動的なものであるため、成果指標自体の判断は難しい。「課題を踏まえた今後の取組」には、「今後も届出等の手続きにおける指導・助言は継続しながら、市民と協働した景観啓発の取組を行っていく」とされているが、その具体案として、基本構想の達成をともに目指す「まちづくり協議会」と具体的計画を共有し、進捗管理をしてはどうか。</p> <p>○本施策を構成する主な事務事業は屋外広告物事務推進事業、都市景観保全・創出事業であるが、評価は主として景観行政を軸に「A評価」とされている。この点が伝わりにくいので丁寧な説明を求めたい。</p> <p>○成果指標①及び③はアンケート結果を用いているが、行政上の何らかの取組を行うことで変動するようなものではなく、平行線で推移することが見込まれる。別の適切な指標候補がないか、引き続き検討されたい。</p>										

# 施策評価表

施策分野	5-2 緑化・公園	
めざすまちの姿	○まちを彩り、ゆとりを与える「みどり」の整備が進み、住む人、訪れる人を魅了しているとともに、地域ニーズにあった活動の場として公園の魅力が増している。	
施策	(1) 地域の特性やニーズに応じた都市公園等の利活用の推進	
総合戦略での位置付け	基本目標2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	-

施策の方向性	○地域ニーズに合った公園整備を推進します ○公園の特性に応じた多様な主体による管理運営や利活用を推進します ○地域の特性に応じた街路樹の整備に取り組みます	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	既設公園整備事業	公園維持管理事業

担当部局評価	A	評価の理由	指標①、②(指標③はR3からの調査のため、今回評価しない)ともに目標値を達成したため、A評価とする。
--------	---	-------	--

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		公園アドプト制度により市民団体などが管理する公園数	↗	公園	65	目標	63	64	65	66	67
		達成状況とその理由	活動団体構成員の高齢化等により、アドプト公園が昨年度より1公園減少した。								
②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	公園で開催されるイベントの数	↗	回	146	目標	160	174	188	202	216	
		達成状況とその理由	ポストコロナ禍の影響もあり、イベント数が昨年度より35回増加した。								
③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	市民アンケートで「地域の特性やニーズに合った公園整備ができている」と回答した人の割合	↗	%		目標	22	23	24	25	26	
		達成状況とその理由	市民アンケートで「地域の特性やニーズに合った公園整備が(十分)できている」と回答した人の割合が22%だった。								

施策実現のための課題	○市民ニーズの多様化に対応するため、公園や緑地をはじめとするみどりのオープンスペースにおいて、地域ニーズに合った公園整備の推進や多様な主体の管理運営による利活用の推進による魅力ある空間の整備が求められている。 ○公園アドプト活動団体構成員の高齢化、担い手不足から活動の継続が困難な状況にある。	課題を踏まえた今後の取組	○平成13年3月に策定した「宝塚市緑の基本計画」は、計画策定から20年が経過しており、この間、様々な社会情勢の変化により、本市の緑を取り巻く状況の変化(生物多様性の保全に対する意識の高まり、協働で働く市民の高齢化による担い手不足、公園・緑地・街路樹などの維持管理費の増大)を受け、基本計画を令和3年度末に改定した。今後、基本計画のアクションプランとして、パークマネジメント計画や都市計画公園の見直し、街路樹管理計画の策定に取り組む。 ○公園リノベーション事業などにより、地域の意見を反映した公園整備を行い、公園の有効活用や公園アドプト活動団体をはじめとする地域活動活性化を図る。 ○新庁舎・ひろば整備事業やパークマネジメント計画の策定などにより、公園の特性に応じた多様な主体による管理運営により、公園の活性化や利活用を推進する。
------------	---	--------------	--

行政評価委員会評価	○様々な社会情勢の変化や宝塚市の緑を取り巻く状況の変化に応じて、20年以上改定していなかった宝塚しみどりの基本計画の改定を行ったことは、高く評価する。 ○成果指標について1人当たりの公園面積など、「市がやるべきこと」を指標化すべき。 ○公園管理のあり方について、市民や利用者団体との連携を進めることが必要ではないか。 ○公園利用の多角的アイデアを募る「公園リノベーション事業」などを生かし、公園利用団体に維持・管理を委託・分業することも検討すべきではないか。
-----------	--

# 施策評価表

施策分野	5-2 緑化・公園	
めざすまちの姿	○まちを彩り、ゆとりを与える「みどり」の整備が進み、住む人、訪れる人を魅了しているとともに、地域ニーズにあった活動の場として公園の魅力が増している。	
施策	(2)花と緑が豊かで、美しく潤いのある都市空間形成の推進	
総合戦略での位置付け	基本目標2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	-

施策の方向性	○市民の緑化意識の醸成を図ります ○民有地の緑化を推進します ○地域緑化モデル地区指定団体を支援します	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	花と緑の市民活動推進事業	公園維持管理事業
	緑化基金活用事業	

担当部局	A	評価の理由	指標①は目標値を達成し、指標②は平成30年度調査よりポイントが増加したため、A評価とする。
評価			

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		地域緑化モデル地区指定団体数	↗	団体	113	目標	114	114	114	114	115
達成状況とその理由		緑化団体が昨年度より2団体増加した。									
②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	市民アンケートで「地域緑化(花)活動への取組ができている」と回答した人の割合	↗	%		目標	34	36	38	40	42	
達成状況とその理由		市民アンケートで「地域緑化(花)活動への取組ができている」と回答した人の割合が平成30年度調査より増加した。									
③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	-	-			目標						
達成状況とその理由											

施策実現のための課題	○南部市街地における良好な景観形成や都市ブランドの向上、地域コミュニティの活性化を図るため、民有地緑化や公共緑化(まちかど緑化)の推進による魅力ある空間の整備が求められている。 ○緑化団体構成員の高齢化、担い手不足から活動の継続が困難な状況にある。	課題を踏まえた今後の取組	○生垣助成や保護樹の指定などにより、民有地の緑化を推進する。 ○地域緑化モデル指定団体などの緑化団体へ花苗の配布等を行い、活動を支援する。 ○安倉フラワーガーデンを市民緑化推進基地として活用し、市民や緑化団体を対象とした花苗講習会の開催や活動情報の発信、PRなどにより、市民の緑化意識醸成や緑化団体の育成支援に取り組む。
------------	---	--------------	--

行政評価委員会評価	○地域緑化モデル地区に対する支援が地区数の増加に貢献していることは評価できる。 ○民有地の緑化推進は、宝塚市の市街地に適合した取組である。生け垣助成や保護樹の指定数などを指標化できないか。 ○成果指標②はアンケート結果を用いているが、単に市民の直感を聞くものであり、具体的な施策の成果とは距離がある。別の指標を検討できないか。 ○公園のアドプト団体数などを成果指標として設定してはどうか。 ○「宝塚すみどりの基本計画」ではブロックごとに主な施策が掲示されている。協働で具体的に計画を作成し、目標達成進捗管理を行ってはどうか。 ○何を根拠として「A評価」を導いているのかの中身が市民には伝わらない。根拠を明確にすべき。 ○本施策は指標①に集中した結果「A評価」とされているが、その中身については「緑化市民団体構成員の高齢化、担い手不足から活動の継続が困難な状況にある。」とされており、これに対する対策については「PR」とされているのみである。対応を検討する必要があるのではないか。
-----------	---

# 施策評価表

施策分野	5-2 緑化・公園	
めざすまちの姿	○まちを彩り、ゆとりを与える「みどり」の整備が進み、住む人、訪れる人を魅了しているとともに、地域ニーズにあった活動の場として公園の魅力が増している。	
施策	(3) 緑地や里山・まち山の保全・再生の推進	
総合戦略での位置付け	基本目標2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	-

施策の方向性	○緑地や里山・まち山の保全活動を促進します ○緑地や里山・まち山の保全活動団体を支援します	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	花と緑の市民活動推進事業	公園維持管理事業
	北雲雀さずきの森緑地環境整備事業	

担当部局	B	評価の理由	指標①は目標値未達成だったが、指標②は目標値を達成したため、コロナ禍の影響も配慮し、おおむね順調としてB評価とする。
評価			

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		緑地や里山・まち山の保全活動参加者数(県立公園含む)	↗	人	246	目標	251	256	260	265	270
		達成状況とその理由	9団体のうち8団体は微増だったものの、1団体で10名の減があったため、結果として保全活動参加者数が昨年度より減少した。								
②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	北雲雀さずきの森緑地における環境保全団体の年間活動日数	—	日	82	目標	94	94	94	94	94	
		達成状況とその理由	緑地環境整備事業の進捗などに伴い、年間活動日数が増加した。								
③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	-	—			目標						
		達成状況とその理由									

施策実現のための課題	○防災・減災のまちづくりに対する意識や生物多様性の保全の必要性の高まり、市民活動の活発化などを受けて、里山・まち山の保全活動の推進が求められている。 ○環境保全活動団体構成員の高齢化、担い手不足から活動の継続が困難な状況にある。	課題を踏まえた今後の取組	○緑地や里山・まち山の保全活動団体へ資機材の提供等を行い、活動を支援する。 ○北雲雀さずきの森緑地では、平成29年度から社会資本整備総合交付金を活用して環境整備事業を進めており、令和4年度が最終年度となる。事業終了後、すみやかに事後評価を行い、事業効果を検証して公表する必要がある。
------------	---	--------------	--

行政評価委員会評価	○【5-2(2)】は都市緑地について、【5-2(3)】は里山・まち山について評価するよう棲み分けるべきである。重複する構成事務事業については適正に整理ありたい。 ○本施策の構成事務事業は【5-2(2)】と大きく重なる。重複を排除すれば、北雲雀さずきの森緑地環境整備事業が本施策の主要な事業ということになるし、指標もそのようになっている。これだけでは施策の評価として不十分ではないか。 ○宝塚市の自然の多くが立地している西谷地域で行っている事業があるのであれば、その活動を評価できるようにすべきである。 ○課題として高齢化、担い手不足とあるが、今後の取組が記載されていない。当該施策に限らず環境に対する認識、考え方は個人差、地域差が大きい。地域目標を目に見える形で示し、地域ごとに住民意識を高める方法を検討すべきである。
-----------	--

# 施策評価表

施策分野	5-3 環境保全										
めざすまちの姿	<p>○地球温暖化の防止に向け、省エネルギー化の取組や再生可能エネルギーの導入が進んでいる。</p> <p>○自然とのふれあいや学びを通して、環境への関心が高まり、生物多様性が保全され、人の営みと自然がつながっている。</p>										
施策	(1)温室効果ガス排出量の削減										
総合戦略での位置付け	-					-					
施策の方向性	<p>○「COOL CHOICE」などの取組を通じて、エネルギー消費量の削減を進めます</p> <p>○地域主体の太陽光発電など再生可能エネルギーの導入を推進します</p>										
施策を構成する主な事務事業	再生可能エネルギー基金活用事業					再生可能エネルギー導入推進事業					
	省エネルギー促進事業					二酸化炭素排出抑制対策事業					
担当部局	B										
評価理由	<p>「温室効果ガス排出量」については、近年、省エネ意識の高まりや設備機器の高効率化などにより減少傾向であったが、火力発電の割合やコロナ禍による家庭のエネルギー使用量が増加したことにより、増に転じた。「太陽光発電設備システムの設置件数」は目指す方向性に向かっているものの、やや目標に届いていない。ただし、令和3年9月時点のものであり、今後、年度末時点の実績が公表されると、目標に到達する、あるいは、近い数値に至ると考える。そのためB評価とする。</p>										
成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		温室効果ガス排出量	↘	千t-CO2	582	目標	564	545	527	509	491
		実績	624								
	達成状況とその理由	近年、省エネ意識の高まりや設備機器の高効率化などにより減少傾向であったが、火力発電の割合や家庭のエネルギー使用量が増加したことにより、増に転じた。									
	②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		太陽光発電システムの設置件数(累計) ※全量買取及び余剰買取分	↗	件数	4,843	目標	5,200	5,500	6,000	6,500	7,000
		実績	5,080								
	達成状況とその理由	記載している令和3年度実績は、令和3年9月時点のものであり、今後公表される年度末時点の数値においては、目標に到達する、あるいは、近い数値に至ると考える。									
	③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
-		-			目標						
実績											
達成状況とその理由											
施策実現のための課題	<p>令和3年7月に、「第2次宝塚市地球温暖化対策実行計画」と「第2次宝塚エネルギー2050ビジョン」を策定するとともに、「ゼロカーボンシティ」を表明した。また、同年12月に「宝塚市気候非常事態宣言」を表明した。このように、地球温暖化防止に向けた基盤づくりは進んできた。また、市民への啓発活動も継続的に進めている。今後、脱炭素化を大きく前進させるには、住宅やビルにおける太陽光発電設備の設置や、環境にやさしい電気の購入、ZEH化・ZEB化の推進が重要になる。であるが、国の政策動向や本市における財源確保などの課題がある。</p>				課題を踏まえた今後の取組		<p>公共施設への太陽光発電設備の設置については、令和4年度、導入可能性調査を実施する。今後、その結果に基づいて、国の補助金やPPAの活用も考えて、設置を進める。住宅についての太陽光発電設備の設置については、阪神7市1町と神戸市が仲介事業者と協定を締結して実施する「太陽光発電及び蓄電池設備の共同購入事業」を推進する。</p> <p>省エネルギーについては、市民向けの啓発事業を継続するとともに、「たからっ子エコライフノート」の活用を広めるなど、実践につなげる手法を進めていく。ZEH化・ZEB化の推進については、国の補助金活用など手法を検討しながら進める。</p>				
行政評価委員会評価	<p>○国や県の財源頼みだけでは持続性がない。宝塚市としての積極的な工夫を求める。</p> <p>○施策の目標を達成するより積極的な事業化に繋がる取組を検討すべき。</p> <p>○普及啓発やPRをもっと強化すべき。</p> <p>○太陽光発電の導入については、市民や企業がどう取り組んでいるかと合わせ、市がどう取り組んでいるかは大変重要であると考え。公共施設への太陽光発電の導入についても強化すべき。</p> <p>○温室効果ガス排出量に係る成果指標について宝塚市の公共サービス事業等で削減できる量を設定すべき。</p> <p>○太陽光発電システムの導入について共同購入支援事業を含めることを明記すべき。</p>										

# 施策評価表

施策分野	5-3 環境保全	
めざすまちの姿	○地球温暖化の防止に向け、省エネルギー化の取組や再生可能エネルギーの導入が進んでいる。 ○自然とのふれあいや学びを通して、環境への関心が高まり、生物多様性が保全され、人の営みと自然がつながっている。	
施策	(2)関係団体等との連携による多様な生物が存在する豊かな自然環境の保全	
総合戦略での位置付け	-	-

施策の方向性	○生物多様性の保全対策を充実します ○人の営みと自然環境との調和を取りながら、生物多様性の保全意識の向上を図ります ○特定外来生物に関する情報を提供するとともに、環境保全活動を通じて防除に努めます	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	生物多様性戦略推進事業	

担当部局	B	評価の理由	コロナ禍のため、たからづかECO講座や屋内イベントの開催を見送ったものの、屋外でできるイベントは実施し、令和2年度見送った生物生態系調査を再開し、環境活動保全活動団体数も維持できたため、B評価とする。
評価			

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		環境保全活動団体数	↗	団体数	25	目標	26	27	28	29	30
		達成状況とその理由	活動団体が参加するパネル展は3回開催し、活動のPRIは行ったが、たからづかECO講座を開催できなかったことが大きかった。								
②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	生物多様性たからづか戦略の進捗率	↗	率	52.4	目標	60	70	80	90	100	
		達成状況とその理由	R3年度数値は6月末に確定する。								
③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	-	-			目標						
		達成状況とその理由									

施策実現のための課題	生物多様性を保全するには、現状を把握するため、調査・情報収集を行う必要がある。コロナ禍のため令和2年度は実施を見送った生物生態系調査は、実施することができた。水辺の生き物探検や虫とりペナントレースなど環境学習イベントには親子など多くの参加があるが、市民の参加や活動を調査・情報収集にも活用していく必要がある。また、生物多様性の重要性を周知していく必要がある。 環境保全活動団体のメンバーは固定化し、高齢化が進むなど、活性化が進んでいない状況がある。また、活動団体や市が主催する講座の受講者だけでなく、広く市民に生物多様性の保全への関心を高めていくが課題である。 特定外来生物については、リストを市ホームページに掲載しているものの、駆除方法等までは、記していない。	課題を踏まえた今後の取組	スポット調査を継続して行うとともに、令和4年度からは、環境審議会の下に設置した部会を開催し、以前の調査結果も含めた分析作業を行い、生物多様性戦略の見直しを行い、課題への対応を図って、生物多様性の保全につなげていく。 市民に生物多様性の重要性の理解を広め、浸透を図るためには、気候変動などの観点も含めた危機感を伝えるとともに、環境学習イベントの在り方も工夫を凝らし、参加時に楽しむだけでなく、継続的な関心や学習・活動につなげていく必要がある。 生物多様性たからづか戦略の進捗率については、令和2～3年度は、コロナ禍における市民活動の停滞の影響も受けており、今後、関係団体等とも活動の進め方等について、話し合っていく。 特定外来生物については、情報を分かりやすく充実させ、駆除につなげていく。
------------	---	--------------	---

行政評価委員会評価	○生物多様性の重要性に関し、小学校では学校授業の一環として地域リーダーの指導による体験学習が実施されている。コロナ禍において、市民が屋外での環境学習会やバードウォッチング、蝶・昆虫・植物の観賞会に参加できる環境が確保されており、市民の生物多様性の知識向上と関心を醸成する取組及び総合評価の結果は妥当である。 ○指標について、メンバーの固定化や高齢化が懸念されている「環境保全団体活動数」が第一の指標として設定されているが、市民の自発性に依拠する指標だけでは行政活動が何を行っているのかが分かりにくい。この項目が「施策」欄の記載から来ているのであれば、「市が」環境団体と連携して行った活動や調整の度合いであるべきではないか。「生物多様性たからづか戦略」が本施策における「市が」なすべき活動であり、本施策を含め具体的な活動計画が目標とともに網羅的に記載されている。成果指標②のような総合的な進捗ではなく、「施策の方向性」に関わる活動戦略から成果指標を再設定することが、本施策評価によるPDCAを回すために必要ではないか。 ○指標①についてはほぼ平行線で推移する形で目標が記載されていること、実績値の数字が市内の団体数を前提としていることから、この状況では今後とも「B評価」以外には付けづらい構造になってしまっている。指標を見直すべきである。 ○「生物多様性たからづか戦略」では、地域ごとの課題の評価、あるいは行動計画(「生物多様性の保全」「生物多様性の恩恵の持続的利用」「普及啓発教育」)が整理されている。この中からも指標の候補になるものはないか。検討ありたい。
-----------	--

# 施策評価表

施策分野	5-3 環境保全	
めざすまちの姿	○地球温暖化の防止に向け、省エネルギー化の取組や再生可能エネルギーの導入が進んでいる。 ○自然とのふれあいや学びを通して、環境への関心が高まり、生物多様性が保全され、人の営みと自然がつながっている。	
施策	(3)健康に暮らせる環境の維持	
総合戦略での位置付け	-	-

施策の方向性	○公害の未然防止に努めます ○河川などの水質保全に努めます	
施策を構成する主な事務事業	公害対策事業	

担当部局評価	A	評価の理由	目標値に達しており、良好な環境が維持されていて、目指す方向性に向かっている。そのためAとする。								
--------	---	-------	---	--	--	--	--	--	--	--	--

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		環境基準達成率(大気質)	↗	%	89	目標	89	89	89	89	89
		達成状況とその理由	良好な環境が維持されたことで、目標値を達成することができた。								
	②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		環境基準達成率(水質)	—	%	96	目標	96	96	96	96	96
		達成状況とその理由	人為的な発生源による基準値の超過は確認されず、目標値を達成することができた。								
	③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		環境基準達成率(騒音)	—	%	94	目標	94	94	94	94	94
		達成状況とその理由	良好な環境が維持されたことで、目標値を達成することができた。								

施策実現のための課題	大気質については、項目「光化学オキシダント」が達成できていない。これは全国での達成率が0.2%と大変困難なものであるが、兵庫県と連携し、高濃度により健康被害が発生するおそれがある際に、市民に向けて注意点を周知する体制を整備し、健康被害の防止に努めている。水質については、人為的な発生源による基準値の超過は確認されていないが、自然由来である項目の超過が少ないながらもある。	課題を踏まえた今後の取組	現在、良好な環境が維持されていると考えるが、これを維持していくには、現状の調査を継続するとともに、必要に応じて注意喚起を行っていくことが必要である。また、さらに環境を向上させていくには、国の動向や法改正の状況、他市の実施の状況を注視・研究し、検査項目の選別、検体数の削減、外部委託の導入などより効率的・効果的な実施の方法について検討していく。
------------	---	--------------	---

行政評価委員会評価	○大気質、水質、騒音の測定は環境政策の基盤であり、目標が達成されていることは評価できる。 ○良好な環境を確認することから、維持するための調査、研究、変化する環境汚染指標の情報収集が期待される。「課題を踏まえた今後の取組」で「国の動向や法改正の状況、他市の実施の状況を注視・研究し、検査項目の選別、検体数の削減、外部委託の導入などにより効率的・効果的な実施の方法について検討していく。」とあるが、継続して測定されてきた重要な基礎調査項目については削減とならないよう慎重に検討されたい。
-----------	--

# 施策評価表

施策分野	5-3 環境保全	
めざすまちの姿	○地球温暖化の防止に向け、省エネルギー化の取組や再生可能エネルギーの導入が進んでいる。 ○自然とのふれあいや学びを通して、環境への関心が高まり、生物多様性が保全され、人の営みと自然がつながっている。	
施策	(4)環境保全を担う人材の育成	
総合戦略での位置付け	-	-

施策の方向性	○環境教育・学習を推進します ○環境保全活動を支援します	
--------	---------------------------------	--

施策を構成する主な事務事業	環境推進事業	環境総務事業

担当部局評価	B	評価の理由	コロナ禍のため、たからづかECO講座の開催を見送り、マイスター登録者を増やすことができなかったものの、環境フォーラムについては、令和3年度は手順を見直し、オンライン開催を成功することができた。双方向のコミュニケーションを行え、コロナ禍に対応した新しい取組を実現させたことでB評価とする。
--------	---	-------	---

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		たからづかECO講座の受講者数(累計)	↗	人	443	目標	465	487	509	531	553
達成状況とその理由	コロナ禍のため、たからづかECO講座の開催を見送り、受講者数は現状値のままである。										
②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	たからづか環境マイスター登録者数	↗	人	6	目標	6	10	20	30	55	
達成状況とその理由	ECO講座等の実施により人材育成を行い、マイスター登録者を増やすこととしているがコロナ禍のためECO講座の開催を見送ることとなり、人材の認定等を行うことができなかった。										
③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	-	-			目標						
達成状況とその理由											

施策実現のための課題	環境保全活動への関心呼び起こし、理解を深め、広がりをつくる中心的な取組みであるたからづかECO講座については、コロナ禍を経た新たな生活様式に対応できる手法も検討する必要がある。なお、もう一つの重要な取組である環境フォーラムについては、オンラインを活用して実施することができたことは大きいですが、それにより人材育成につなげていく課題がある。	課題を踏まえた今後の取組	気候変動への危機感の高まりもあり、市民の環境負荷の低減、環境保全への関心も強くなっていると考え。これまで取り上げてきた重要な環境課題はもちろん、新たに関心が寄せられ、話題となっている環境課題についても、啓発を開始していく必要がある。たからづか環境マイスターを増やしていくことに取り組んでいくとともに、SNSやオンラインの活用を充実させ、新たに環境保全活動に取り組む人を増やすことにも注力する。オンラインによる環境フォーラムの開催については、まずは、周知や内容を工夫し、参加者を増やしていく。
------------	---	--------------	---

行政評価委員会評価	○コロナ禍における環境フォーラムのオンラインによる実施、またその評価について適切と考える。 ○本施策と関連事業にとって、コロナ禍は対面での企画が実施できないだけでなく、環境問題への認識や危機感を後退させてしまいかねない。オンラインや多様な媒体を通じた、環境教育や人材育成の取組を今後も企図されたい。 ○環境マイスター登録者数6人は、人口23万人都市として少なすぎるのではないかと。人材の発掘や育成に原因があるとのことであるので対策について検討ありたい。 ○成果指標について、たからづかECO講座とたからづか環境マイスターについてこれらの指標の中身が分かりにくいので、その内容について分かりやすく記載すべき。
-----------	--



# 施策評価表

施策分野	5-4 循環型社会	
めざすまちの姿	〇ごみの発生を抑え、資源のリサイクルが進むなど循環型社会づくりが進んでいる	
施策	(1) ごみの減量・資源化の推進	
総合戦略での位置付け	-	-

施策の方向性	〇スマートフォンアプリなどを活用した不用品の販売などごみを作らない生活の工夫や資源ごみの店頭回収など、3Rの取組を推進します 〇事業系ごみの分別徹底による資源化や廃棄食材の削減などに努め、ごみの減量化を推進します 〇中間処理におけるリサイクルを推進し、焼却ごみの削減を図ります	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	ごみ減量化・資源化推進事業	清掃総務事業
	緑のリサイクル事業	

担当部局評価	B	評価の理由	コロナ禍ということもあり、施設見学や出前講座など市民と直接話し合う形での啓発をすることができず、食品ロス削減や分別の徹底などを広報たからづかや市ホームページを経ての啓発しかできなかったが、成果指標①については目標を達成することができた。また、成果指標②の事業系燃やすごみについても、事業自粛などの影響で削減でき目標を達成した。また、中間処理における資源化対策を着実に実施したことや搬入される燃やすごみ量の削減効果から成果目標③についても目標を達成した。しかしながら、コロナが終息すれば、事業系ごみについては増加に転じることが容易に予想されることから、今回の目標達成についてはコロナの要因が多分にあることから評価はBとした。
--------	---	-------	---

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)	目標	R3	R4	R5	R6	R7
		市民一人1日当たりの燃やすごみ平均排出量(家庭系ごみ)	↓	g/人・日	412.6	412.4	412.1	411.9	411.7	411.5	
		達成状況とその理由	コロナ禍においても、市民の皆さんの協力を得て順調に減量が進んだ。								
成果指標	②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)	目標	R3	R4	R5	R6	R7
		事業系燃やすごみ排出量	↓	t	14,363	14,266	14,169	14,072	13,974	13,877	
		達成状況とその理由	基準年である令和2年度もコロナの影響で事業系の燃やすごみは9%の減量となっていた。今年度も引き続きのコロナによる営業自粛の影響が大きいと考えられるが、事業系の燃やすごみ量は結果的に昨年度より減量となった。								
成果指標	③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)	目標	R3	R4	R5	R6	R7
		焼却ごみ量	↓	t	53,232	53,042	52,853	52,663	52,473	52,283	
		達成状況とその理由	①②の踏まえて燃やすごみ量は削減となった。								

施策実現のための課題	・個人の不用品の処理の方法として、以前はフリーマーケットで販売したり、リサイクルショップに売るなどが主流の時代もあった、現在ではスマホのアプリで売買できる環境が整い流通もこれに対応している。不用品の処理の方法についても社会の動きを注視し時代に合った啓発をする必要がある。 ・withコロナも意識した啓発の在り方を検討する必要がある。また、コロナ終息後の事業系ごみを中心としたごみ量を想定し、ごみ減量の対策を検討する必要がある。	課題を踏まえた今後の取組	・社会の動きにアンテナを張り、時代に合った啓発を行う。(現在でもサブスク利用によりごみを作らない。レンタルを利用しごみを作らない。不用になった物をSNSで処理しごみにしない。などを市民に情報提供する。) ・コロナが終息すれば、従来どおりの施設見学や地域に入っでの啓発も可能となるが、コロナの終息がいつになるかわからず、今後も感染が広がるリスクを考慮し、PPTや動画配信など非接触の啓発を充実させていく。 また、減量施策として、減量の動機付けとして効果的な一般廃棄物処理手数料の見直しを行う。
------------	--	--------------	---

行政評価委員会評価	〇アフター／ウィズコロナ時代における普及啓発について重視していただきたい。事業系ごみの啓発については特に注力すべき。 〇高齢化に伴う紙おむつの処分量増加への対策について検討ありたい。 〇「リデュース」のみならず「リサイクル」「リユース」の成果指標も設定すべき。 〇めざすまちの姿に「リデュース」「リサイクル」はあるが、「リユース」を示す表現がない。総合計画の改訂の際に検討ありたい。 〇ごみの資源化事業について本格的に取り組む必要がある。 〇総合評価は「A」ではないか。ただし、コロナによる外部要因を丁寧に説明すべき。
-----------	--

# 施策評価表

施策分野	5-4 循環型社会	
めざすまちの姿	〇ごみの発生を抑え、資源のリサイクルが進むなど循環型社会づくりが進んでいる	
施策	(2) 安全で安定したごみ処理	
総合戦略での位置付け	-	-

施策の方向性	〇計画的に修繕するなど、ごみ処理施設を適切に維持管理します 〇事業の進捗状況などの情報を発信し、市民の信頼を得ながら、エネルギー回収推進施設(ごみ焼却炉)等の新ごみ処理施設を整備します 〇高齢化により増える一人暮らしでゴミ出しが難しい高齢世帯に対応した福祉収集に取り組みます	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	し尿収集事業	し尿処理事業
	塵芥処理事業	塵芥収集事業
	新ごみ処理施設整備事業	

担当部局評価	A	評価の理由	既存ごみ処理施設やし尿処理施設については、日々の点検や定期点検を念入りに実施したうえで各所の計画修繕や適時の修繕、整備を実施したため、施設を止めることなく安定的に運転することができ、市内で発生したごみやし尿を安定的かつ衛生的に処理したことにより、衛生的で暮らしやすい生活環境を維持することができた。また、新ごみ処理施設等整備・運営事業については令和3年8月に入札公告を行い複数企業の参加のもと令和4年3月末の提案書提出に向け順調に推進しており、切れ目のないごみ処理施設の運営を維持することができている。以上のことから両成果目標を達成することができたことから評価はAとした。
--------	---	-------	--

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)	目標	R3	R4	R5	R6	R7
		施設の緊急停止回数	↓	回	0	0	0	0	0	0	0
達成状況とその理由		施設の老朽化に伴い、機器類の不具合の発生頻度は増加の傾向であるが、事前の対応ができており緊急停止には至らずに運転することができている。									
成果指標	②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)	目標	R3	R4	R5	R6	R7
		エネルギー回収推進施設(ごみ焼却炉)の整備工事進捗率	↑	%	0	0	0	0	0	12	33
達成状況とその理由		今年度は入札公告を8月に実施し、施設見学、質疑回答、参加申請など令和3年以内に実施し、令和4年3月に事業者提案を受け取った。計画通りに進捗しているが、工事着手までにはしばらく時間を要する。									
成果指標	③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)	目標	R3	R4	R5	R6	R7
		-	-								
達成状況とその理由											

施策実現のための課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存施設については、日々の点検や定期点検を入念に実施し、機器の異変にいち早く気づくことが必要。</li> <li>また、新ごみ処理施設等整備・運営事業については、十分な調査と協議により遅滞なく事業を推進することが必要。</li> <li>核家族化で高齢世帯が増加し、家族での助け合いが難しい時代となっている。ゴミ出しにお困りの高齢の方は現在も多く存在すると推測するが、ゴミ出しのサービスをどこまで拡充するのかは行政の今後の課題である。</li> </ul>	課題を踏まえた今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存施設については、現在実施している点検や計画的整備を継続して実施する。</li> <li>新ごみ処理施設等整備・運営事業について、スケジュールどおりに事業を推進し、新施設稼働時期が遅れないよう取り組むこと。</li> <li>現在の本市の財政状況等を勘案すると困っているだけでのサービス拡充はできない状況であり、今後のニーズを把握し実施要件等について検討していく。</li> </ul>
------------	---	--------------	---

行政評価委員会評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇成果指標②はR6以降の話であるため、本施策は成果指標①によって評価されている。成果指標①は「施設の緊急停止回数」であり、緊急停止がなければ必ず「A評価」になる。すなわち、本施策は概ね「A評価」がつく前提となっている。より適切な指標を検討ありたい。</li> <li>〇「A評価」については主としてゴミ処理関係が順調に維持・継続されていることがその理由とされているが、ごみ処理は日常的なことであり、特段の顕著な実績が出ているわけではない。「B評価」が妥当と思われるところ、「A評価」の根拠は明確に説明されるべき。</li> <li>〇きずな収集登録者数や合併処理浄化槽の設置状況などの追加を検討してはどうか。</li> <li>〇想定外の事故や災害で処理施設が稼働停止した時の対策として、例えば、近隣自治体との相互協力体制の締結や既存施設を緊急時のバックアップ施設として保持するなど検討が必要である。</li> <li>〇課題として、ゴミ出しについてお困りの高齢者が多く存在することが言及されており、他方で今後の取組として、「困っているだけでのサービス拡充はできない状況」とされている。この問題は長年にわたるまちづくりの結果が問われる。指標を再検討ありたい。</li> <li>〇施策はハード面だけとなっているが、適正なゴミ出しを啓発するソフト面の施策も必要である。</li> </ul>
-----------	---

# 施策評価表

施策分野	5-5 都市美化・環境衛生	
めざすまちの姿	○まちの美化活動により、きれいで快適な生活環境が保たれている。	
施策	(1)市民との協働による美化活動の推進	
総合戦略での位置付け	-	-

施策の方向性	○まちを美しくするという市民意識の維持・向上に努めます ○ごみの不法投棄防止対策を進めます	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	都市美化推進事業(環境政策)	都市美化推進事業(生活環境)
	不法投棄未然防止事業	

担当部局	B	評価の理由	2つの目標は達成しているが、「宝塚を美しくする市民運動」については、コロナ禍以前は一斉清掃が実施され、春秋で延べ468団体が参加していたことを考慮して、Bとする。
------	---	-------	---

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		「宝塚を美しくする市民運動」参加団体数	↗	団体数	64	目標	80	80	350	350	350
		達成状況とその理由	コロナ禍のため、一斉清掃の実施は難しく、各自治会の判断による個別清掃の実施を想定した目標としており、令和3年度は目標を超えた参加団体数となった。								
②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	不法投棄された家電リサイクル対象廃棄物の回収件数	↘	件数	28	目標	20	18	16	14	12	
		達成状況とその理由	不法投棄が減少したことにより、回収件数も減となった。								
③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	-	-			目標						
		達成状況とその理由									

施策実現のための課題	<p>まちを美しくするという市民意識の維持・向上のためには、市民の活動機会の確保が必要であり、一斉清掃を行ってきたが、コロナ禍により各自治会の判断に基づく個別清掃となっている。個別清掃においては自主的な参加を増やせるか、一斉清掃を実施できる場合は以前の参加団体をどこまで戻せるかという課題がある。</p> <p>不法投棄については、監視カメラを現状32台設置しているが、未だ一部地域に不法投棄が存在する。新たな監視カメラを設置するなど西谷地区不法投棄未然防止協議会及び兵庫県とさらに連携していく必要がある。</p>	課題を踏まえた今後の取組	<p>「宝塚市を美しくする市民運動」については、令和4年度は、一斉清掃を復活させて行う。しかし、参加団体数や新型コロナの状況を見据えて、実施主体である宝塚市自治会連合会及び宝塚市自治会ネットワーク会議と、より多くの団体の参加に向けた協議を行っていく。</p> <p>不法投棄は減少傾向にあるが、状況や傾向を把握しながら、西谷地区不法投棄未然防止協議会及び兵庫県と連携しながら、さらなるカメラの設置等に取り組んでいく。</p>
------------	---	--------------	--

行政評価委員会評価	<p>○「宝塚を美しくする市民運動」の一斉清掃の取組は評価できる。</p> <p>○参加団体の高齢化に伴う担い手の確保について、さらに検討を進めるべき。</p> <p>○自治会を中心とした活動に加え、さらに、団体・企業に参加してもらうためのアプローチを検討ありたい。</p> <p>○市民活動を支援する行政活動を指標化できないか検討してはどうか。</p> <p>○不法投棄についてはカメラ設置以外の説明が必要である。</p> <p>○「宝塚を美しくする市民運動」について、善意に応える制度や手法についても検討ありたい。</p>
-----------	---

# 施策評価表

施策分野	5-5 都市美化・環境衛生	
めざすまちの姿	○まちの美化活動により、きれいで快適な生活環境が保たれている。	
施策	(2)環境衛生の維持	
総合戦略での位置付け	-	-

施策の方向性	○ペットの適正管理を進めます ○害虫発生 of 未然防止を図ります ○墓地の長期的・安定的な供給を推進します	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	ペットとの共生都市推進事業	害虫駆除衛生事業
	畜犬対策事業	長尾山霊園管理事業
	宝塚すみれ墓苑管理事業	

担当部局	B	評価の理由	狂犬病予防注射接種率はほぼ目標に達し、市営霊園使用者数は目標を超えたが、飼い主のいない猫の赴任・去勢手術費助成金に係る手術実施数については、コロナ禍による地域猫活動の低下の影響で、目標に達しなかったため、Bとする。
------	---	-------	---

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		狂犬病予防注射接種率	↗	%	77	目標	78	78	78	78	78
		達成状況とその理由	コロナ禍以前の高い率を維持し、ほぼ目標に達している。								
	②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		飼い主のいない猫の不妊・去勢手術費助成金に係る手術実施数(累計)	↗	件数	814	目標	954	1,094	1,234	1,374	1,514
		達成状況とその理由	令和3年度は申請匹数(112匹)であったが、実施匹数は捕獲が49匹と少なかった。								
	③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		市営霊園使用者数	↗	人	9,668	目標	9,770	9,872	9,974	10,076	10,178
		達成状況とその理由	様々なPR活動を行い、主に宝塚すみれ墓苑の貸出の増により、目標を超えることができた。								

施策実現のための課題	<p>畜犬対策事業においては、畜犬登録制度等の改正への対応が課題である。飼い主のいない猫の不妊・去勢手術費等助成金交付事業の認知や利用が進んでいるものの、全体数の把握は難しく、相談は毎年一定数ある。害虫発生 of 未然防止のための公共用水路への薬剤散布、共用下水管への薬剤散布等の業務は、実施日数が目標に達しており、円滑に実施できており、特に課題はない。墓地の長期的・安定的な供給に向けては、長尾山霊園の老朽化が課題である。</p>	<p>課題を踏まえた今後の取組</p> <p>畜犬対策事業について、狂犬病予防注射は、西谷地区を除き集合注射を実施しなかったが接種率を維持できたため、この方向を継続する。また、畜犬登録制度等の改正に応じて、現状の畜犬システム(当市独自システム)の改修等、対応を検討する。飼い主のいない猫やペットによるトラブルを減らしていくために、飼い主のいない猫の不妊・去勢手術費等の助成の利用、猫の飼養に関する啓発、苦情相談などを継続的に行っていく。害虫駆除業務は、害虫駆除相談に対応しながら、計画的、継続的に実施していく。墓地の長期的・安定的な供給に向けては、長尾山霊園は施設・設備の老朽化対応を図っていく。宝塚すみれ墓苑は、令和5年度から樹木葬の供用を開始し、市民ニーズに対応する。</p>
------------	--	--

行政評価委員会評価	<p>○施策の実施状況、また評価については適切と考えられる。引き続き、施策の実施に努められたい。</p> <p>○環境衛生の維持施策は、地球温暖化の影響で活発な被害が増大することが予想される。市の対応に期待する。</p> <p>○2021年に環境省が「人、動物、地域に向き合う多頭飼育対策ガイドライン」を設定している。多頭飼育問題は社会福祉の課題であることも多い。福祉分野との連携を期待する。</p>
-----------	--